

スピードと提案力に優れた精密加工技術。社内体制と資金計画の見直しが、未来を拓く

株式会社ヒラサワ



代表取締役社長
平澤 哲弥

1989 年上伊那郡宮田村出身。機械設計加工会社勤務を経て、2016 年入社。2022 年、代表取締役社長就任。祖父や父の影響で狩猟が趣味になり、狩猟免許を取得。



形や数量、用途に応じた最適な加工方法を提案。写真は放電ワイヤー加工機



切削加工を行った部品の一例。あらゆる形状と素材に対応し、用途に合わせて効率的な変更提案も行う

同社が手掛けるコンデンサー部品。異種材質の同時抜きプレス加工から組立まで一貫対応



柔軟かつスピーディーな切削加工を軸に

1962 年にプレス加工で創業し、現在は電気回路・電子機器の設計に欠かせないコンデンサーの部品加工、切削加工といった精密部品加工を主軸とするヒラサワ。1970 年代から、プレス部品の小型化・精密化に対応するワイヤーカット放電加工機、金型製造のためのマシニングセンターや CNC 旋盤導入など、設備投資と工場増設を続けてきました。しかし 2010 年頃のリーマンショック、加工業の海外流出、さらに 2014 年に火災で工場が全焼し取引に影響を及ぼすなど、低迷の時期を経験しました。

現代表の平澤哲弥さんが、祖父から父へと受け継がれてきた同社に入社したのは 2016 年。前職で切削加工に携わっていたこともあり、既存設備を生かして少量多品種の切削加工に主軸の移行を図ります。設備投資も奏功し、現在は切削加工がプレス加工を上回る売上となりました。

強みは、試作から中規模量産まで一貫して対応できる柔軟な生産体制。あらゆる形状や素材に対応するのはもちろん、「材料さえあれば、今日受けた注文を明日の午前中に納品することも可能です」と小回りの効く体制も特長です。クライアントにとっては試作を検証し、量産までスムーズに進めやすいスピードが魅力に。さらに、用途や予算に合わせて「このように設計変更するとコストカットが可能」といった提案力も、顧客の信頼につながっています。

社内体制と資金計画の改善で業績アップへ

創業時から受け継ぐモットーは「スピードはすべてに勝る、すぐやろう」。現会長が、昔から折に触れて口にしていた言葉だったそうです。「すぐに取り組みる課題には、すぐに着手する。特にクレーム対応はスピードが命です。そうすることで、トラブルの種を事前に積むことができますから」と平澤さんは話します。

一方で、新しい改革も積極的に行ってきました。平澤さんは入社後、社内体制の刷新に尽力。「当社は技術力が高い一方、営業力の弱さが課題でした。私を中心に営業の体制を整え、2022 年には営業の要となる信頼できる人材を社外から迎えたことで、大きく改善を図ることができました」と振り返ります。

もう一つの課題だったのが、総務や経理といった間接部門と営業部門、製造部門のコミュニケーション不足です。

「例えば製造部門の視点では、しっかりとものづくりをしているのに売れないのは営業のせいだと考えてしまっていました。互いの状況が見えていないことで不和が起きていると感じ、部門を超えて課題を共有する体制を築きました」

風通しを良くすることで社内の雰囲気も向上し、社員一丸で取り組む意識に変化。それに伴い、業績も上向いていったのです。

33 歳で経営を引き継いだ後はさらなる事業拡大を目指し、営業力の強化や設備投資を行うべく資金計画の見直しを実行。メインバンクと信用保証協会の協力を得て、借入金の一括化と返済期間の延長を図ることで毎月の返済負担を軽減し、資金繰りの安定化と企業体力の向上につなげています。

「キャッシュフローに余裕ができたことで、将来の計画に視野を広げて業務に集中できるようになりました」と平澤さん。今後は、検査のオートメーション化や設備の更新を展望しています。

経験と技術を生かした狩猟用罠で地域に貢献

部品加工を軸とする同社が製品として開発し、販売まで行う唯一の商品が、狩猟用の「速くくり罠」。地域で年々深刻化する獣害対策として、シカやイノシシ、クマに対応する商品を販売しています。

会長、先代社長、そして平澤さんは、代々狩猟免許を持つ猟師の一族。社内外に現役猟師の知人が多いことから、現場の知見を基に同社の技術を生かして開発しました。現在、上伊那郡に限ると約 8 割に及ぶ使用実績を誇ります。「会長自身が山で使うために、罠を自作したことが始まりです。使いやすいと評価をいただいたことから商品化し、現在は長野県内のほか福井や山梨、新潟、北海道にも納入しています」

機能の改善を繰り返し、2026 年には木製だったベース部分をアルミニウム製に変更。土に埋めても腐食しない耐久性アップに加え、200g 軽量になって持ち運びがしやすくなりました。金属プレスや精密加工の技術を応用し、地域の安全に貢献しています。

1970 年代から少しずつ増設してきた工場は、現在全 3 棟。
29 名の社員が働いている



コンピュータ制御の工作機械「マシニングセンター」での切削加工も行っている



創業者の現会長が開発した狩猟用「速くくり罠」。金属製で剛性と耐久性に優れる上、軽量で持ち運びの負担が少ない



職人が手作業で部品を加工するプレス機が今も現役。手入れが行き届き、製品開発などに用いられている

株式会社ヒラサワ

創業 | 1962 年（法人設立）
事業内容 | 電子部品・デバイス・機械部品加工
〒 399-4301 上伊那郡宮田村 86
Tel 0265-85-3045 HHP <https://hirasawa-ppp.co.jp>